

官民バリウスリンク会議による開発手法

ユーザー利益最優先

使う側の気持ちを最も大切にする。

メーカー都合の開発から、**ユーザー主導の開発**に切り替える試みとして、「官民バリウスリンク会議」=複数のメーカーや公的機関による連携・打ち合わせ(公開)で、進捗の情報共有し、国際競争力のある技術インフラを確立する。

現状の地域活性化策(地方創生・スタートUP・再開発)は全てNGです。基本的に、企業都合の提案なので(=企業の利益のための提案なので)狭い範囲の技術内容であり、有効なものがない。

楽しく取り組む
遠慮と批判厳禁

高効率の光合成を行う、藻種がみつければ、あるいは開発されれば、それだけカーボンニュートラルの達成が早まる。

＜バリウスリンク会議の補足＞

ステッパーで世界市場を席巻していたニコン・キヤノンが、ASLM社に負けた根本原因は「技術を自社で囲おうとしたこと」で、元ニコンのステッパーの開発者の弁「ステッパーに関する広範囲な分野の技術を自社内だけでやろうとしていたので、リソースが足りなくなった。辛かった。」なので、特許や契約で守られた技術を得意分野をもつ海外を含めた各専門の会社に任せ、それらを持ちより、また、ユーザーの意見を聞きながら、開発を進める(=バリウスリンク会議)ことが正しい開発手法です。

情報共有&情報公開しながらも、世界のブレーンが集まることにより、世界最先端の技術(新たに数多くの特許が取得され)にて、一社だけでやろうとしていたら、どこの企業も追いつけないレベルにまで到達すると考えています。

ブルーカーボンをやってます、と言っても従来は自然生育しているものを見守るだけであり、アイゴやウニによって食べられ、また商業・観光施設の増加により、むしろ藻場が減少傾向でした。「木造人工島のブルーカーボン」で急拡大する。

将棋の藤井八冠の
強さのイメージ

AI(人工知能)のレベル

藤井八冠(常に安定している)

プロの平均レベル

一般的なアマチュア
強豪の平均レベル

序盤

中盤

終盤

「超一流の精神力」と言われ、序盤から中盤、そして終盤へと強さが常に一定している。(他のプロ棋士は多少思考のムラが存在する。)

バリウスリンク会議
にて安定した開発力

理想的なシステム開発力

バリウスリンク会議にて
達成される技術開発力＝
連携&情報共有でムラが
なくなる。(個々に独立・分
担をするとムラが生じる。)

技術
A

技術
B

技術
C

技術
D

技術
E

分科会に分けたり、役割分担をし勝ちですが、成熟社会では通用せず、全方位で同時に考える必要があります。＝バリウスリンク会議。

過剰品質や性能不足
が発生、場合により設計
ミスが生じることがある。

ニューインフラ:木造人工島のブルーカーボン

- ①地方創生貢献度:25%
- ②世界平和貢献度:25%
- ③新技術の達成度:25%
- ④売上&利益貢献:25%

名誉会長:経済産業省大臣

官民バリウスリンク会議

統括戦略会議(各機関の業績評価)

座長:経済産業省

全体会議(月一回)
第3金曜日午後2時~
(終了後自腹打ち上げ)

世界中の海外沿い・無人島回りに「木造人工島のブルーカーボン」を展開し、従来レベルでの化石燃料を使い続けながらも、2040年頃のカーボンニュートラルを目指す。

売上至上主義から脱却しユーザの使用の満足度UPを追求する。

(随時)

研究開発知財会議

(世界中の技術動向を把握し、標準化をし、知財の侵害監視や、新しい技術導入でさらなる社会貢献ができないか検討する。)

(随時)

販売・設置・サービス・メンテ準備会議

(各国の地元サービス企業と連携しながら、各地の問題点の共有を行い、共通の対応策を模索する。)

サブホストメーカー
五洋建設

ホストメーカー
清水建設

座長
経済産業省

普及担当
三菱商事
三井物産

アイデア提供
ガーデン
フィールド

幹事会

国交省

経産省

環境省

農林水産省

希望するゼネコン

希望する藻種研究機関

常任

建設・土木メーカー様

文科省様

厚生労働省様

内閣府様

総務省様

財務省様

(希望するメーカー様は他業種でも参加可能)

沖縄県様

長崎県様

北海道様

東京都様

オブザーバー参加

(住民の声を反映させる)

<活性化会議システム>

(自分の立場を離れ、より広く考える。)

- 1.会議での服装は自由とし、必ず本音で話す。(大義名分や会社の立場等は不要)
- 2.議事録は共有サーバーに入れ、パスワードを設定し、誰でもみられるようにする。
- 3.平行線の議論は、次回の議題にし、その場では無理に結論を出さない。

(双方で関連情報の再調査を伴う。)

各省庁・各社は、2名が参加(ホストメーカーは参加無制限)し、開発にかかった費用をすべて申告する。幹事会にて、各社の業績評価を実施、かかった経費の1.2~20xが売上の中から支払われる。(ホストメーカーとサブメーカーとで詳細内容を決定する。)

第一回官民バリウスリンク会議(11月14日)

- 1 オープニング挨拶(14時～)
(経産省大臣又は代行者)
2. ブルーカーボンによるカーボンニュートラルの可能性について(環境省)
3. 超高効率光合成の藻種の開発の可能性について(理化学研究所)
4. 木造人工島のブルーカーボンの世界展開について(国交省)
5. 「木造人工島のブルーカーボン」の特許概要(ガーデンフィールド)

参加任意

千円徴収の打上げ会(～17時)

第二回官民バリウスリンク会議(12月12日)

- 1 オープニング挨拶(14時～)
(経産省大臣又は代行者)
2. 「木造人工島のブルーカーボン」の市場予測と生活環境の変化予測
(三井物産・経産省)
3. 「木造人工島のブルーカーボン」の標準図面の説明
(清水建設&五洋建設合同チーム)
4. 「木造人工島のブルーカーボン」に当面搭載の地域別推奨藻種の説明
(理化学研究所)
5. バリウスリンク会議の意義説明
(ガーデンフィールド)

参加任意

千円徴収の打上げ会(～17時)

バリウスリンク会議の具体的な進め方

あくまで一つの提案であって、関係者が納期等で追い詰められることなく、楽しく仕事できれば、形態はなんでもよい。

参加各社は「バリウスリンク会議窓口課」を設定する。

窓口課は、「バリウスリンク会議の概要」と「〇〇のテーマで参加した」ことを全社内に通知をする。

窓口課は、「バリウスリンク会議の自社の分担のテーマに沿ったアイデアを社内募集し、応募者および応募グループからのアイデアをPPで受け付ける。（専用ホルダーを設定し、応募者＆応募グループはあらかじめ窓口課とのメールのやりとりで、該専用ホルダーのパスワードを取得する。）

窓口課は、社内有識者（バリウスリンク会議出席者）と相談し、アイデアに順位をつける。（3位程度までをバリウスリンク会議にて報告する。どのアイデアも全体の整合性が取れない場合は、再度アイデアを募集する。それを何度か繰り返すことがある。）

窓口課は、バリウスリンク会議で了解されたアイデアの図面化のために社内調整を行う。（アイデア出しグループと異なる部門が担当してもいいし、外部委託も可能＝システムとして特許で守られている。）

.....

窓口課は、バリウスリンク会議にかかった全経費（専用様式）を次の月の10日までにホストメーカーに送付する。（総人件費、設備使用料等・・・）

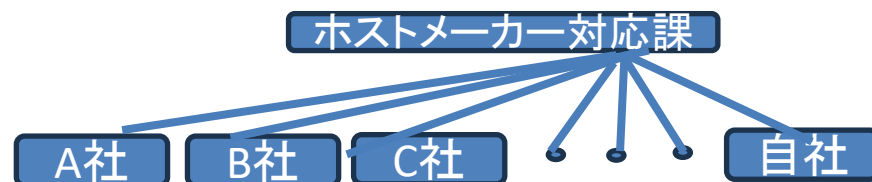
ホストメーカーは「バリウスリンク会議対応課」及び「窓口課」を設定する。

対応課は、「バリウスリンク会議の概要」と「〇〇のテーマで参加し、ホストメーカーとなった」ことを全社内に通知をする。（窓口課は、左記内容を実施する。）

対応課は、「バリウスリンク会議の設定、会議進行&議事録作成及び各社窓口課への連絡及びオブザーバー参加者への連絡を行う。

対応課は、議事録を含む各種資料のホルダーを作成し各社窓口には、月ごとに代わるパスワードを通知する。（各社の社員は、窓口課の了解が得られれば、誰でも閲覧が可能となる。）

対応課は、自社を含む各社の提出した「全経費」をチェックし、バリウスリンク会議でその概要を報告し、議事録にも記載する。

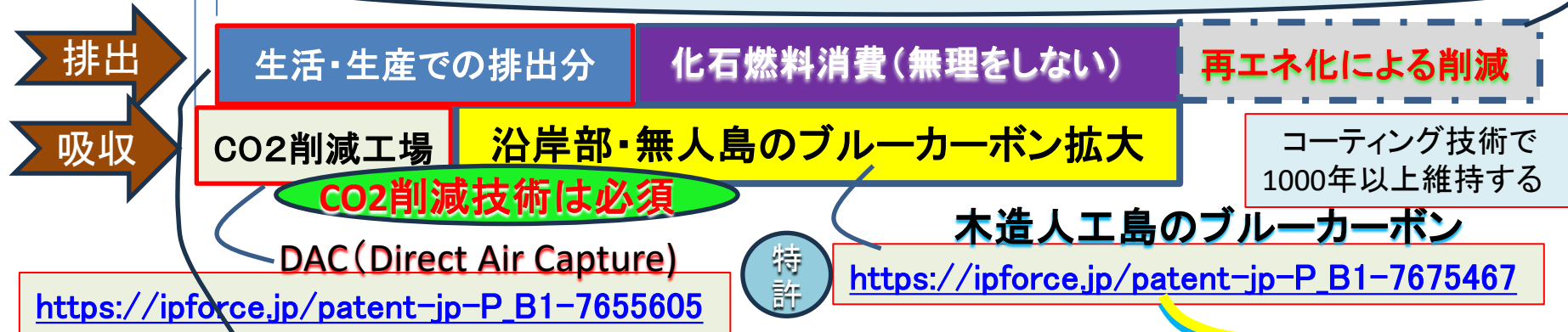


各社からのバリウスリンク会議への出席者2名は固定せず、その都度社内公募がよい。

<2040年CO2実質マイナスのイメージ>

製造や廃棄処理過程でCO2排出し、実質の効果は少ない・・・

ある程度まで再エネ化が進んだら無理をせず、CO2そのものを削減する

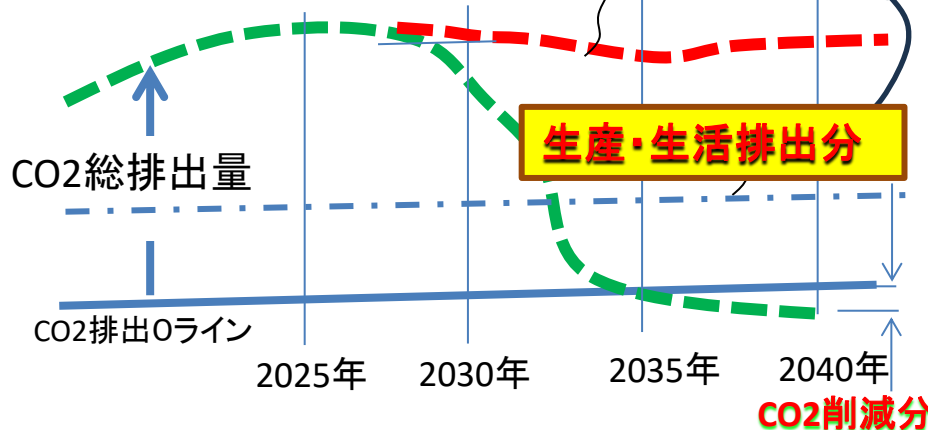


現状の再エネ機器は環境破壊・生態破壊（熊）を引き起こし、また寿命が短いので、あまり歓迎はできませんが、従来路線継承で進めてもよい。並行して、生産・生活排出分のCO2を削減する技術開発を進めていく必要がある。

(必須)

現状路線

生産・生活排出分



世界の隅々まで平和領域を広めることで、間接的な軍縮の狙いも併せ持つ

水陸両用低速自動運転車

例えば、尖閣諸島の全周を木造人工島のブルーカーボンで覆い、水陸両用低速自動運転車に乗車し、栄養補給や密閉木箱の水量調整＝深さ調整(最適光合成条件設定)を行うことで、平和利用を名目にして、安定した尖閣諸島の領有ができると考えています。